

## 令和5年度第6回沖縄県環境影響評価審査会（答申案の審議）議事概要

【日時】令和5年10月19日（木）13：00～14：15

【場所】ピーススクエア 5階 会議室C（住所：浦添市西原2-4-1）

【出席者】

- ・ 県環境影響評価審査会委員  
（会場）日高会長、山川委員  
（Web）棚原副会長、尾方委員、嵩原委員、立原委員、傳田委員、安里委員
- ・ 事務局（県環境政策課）小川副参事、宮平班長、原田主任、與那原主任

【議題】

- ・ 石垣空港跡地土地地区画整理事業に係る環境影響評価準備書に対する答申案について事務局より、事業概要及び環境影響評価準備書に係る審査概要について説明の後、質疑応答を行った。

【質疑・応答】●委員 ○事務局

● 陸域の河川と水路に関して、周辺の河川と水路の調査を行わせるということだが、周辺というのはどこまでを想定しているのか。

○ 評価書で放流水の計画等を示させた上で、影響が及ぶと考えられる範囲を予測し、事業者において適切な地点を選定していくといった形で考えているので、現状、具体的なポイントについては考えていない。

● 最終的には具体的な河川名や水路名、範囲が示されるということか。

○ 具体的な放流水路や最終的にどこの公共用水域に合流するかといったものを含め、示されるものと考えている。

● 繁殖している鳥の確認ということで、キンバトやミフウズラの話があったが、草原的な開かれた環境になっているので、キンバトは難しいかもしれないが、ミフウズラの繁殖の可能性は高いので、調査を実施し、繁殖の有無を確認してもらいたい。同じような環境にリュウキュウヒクイナも営巣するので、付け加えてもいいのかなと思う。

生態系の項目について、上位性の指標種としてハヤブサが留鳥として位置付けられているが、ハヤブサは冬鳥であると思う。越夏する個体も見ることにはあるが、繁殖することはないと思うので確認してもらいたい。

○ 都市計画決定権者に再確認するよう伝える。

● ハヤブサではなく、リュウキュウツミという重要な種がいる。沖縄県レッドデータブックでかなり

ランクの高い八重山諸島にしかいないツミがいるので、間違えたのではないか。

○ 陸域動物の項目でツミも確認されているので、只今の御意見もあわせて伝える。

○ 事業実施区域に木というと、ほぼギンネムしか生育していない状況であるが、ギンネムでもミフウズラやリュウキュウヒクイナの繁殖場所となる可能性はあるのか御意見を伺いたい。

● 草原とか農耕地に近いものであればミフウズラやリュウキュウヒクイナの繁殖場所となることはあり、もう少し森林があるのであれば、キンバトも入る可能性もある。キンバトは基本的には森林地域の低木層、階層構造の中で1番下の低木層の上あたりに巣作りするので、林があれば十分可能である。

将来的にバッファゾーンを入れるのであれば、そういうところも配慮して樹林を作っていくという手はあろうかと思う。

● 濁水の事後調査を項目に入れるように書いてあるのでいいと思うが、その予測値について、大丈夫だという前提条件がどのようなものだったのかということをお聞きしたい。計算すると300mm/日の降雨があると満杯になり、それ以上は、オーバーフローするということだと思う。準備書でも、専門家が、400mm/日の例があると言っており、そういった場合に、SSの残留率が4%程度になるということが成立するのか。もし成立しないであれば、成立するのはどのような条件なのか確認したい。

○ 赤土等による水の濁りについて、環境影響評価項目として選定されていないが、資料編で暫定調整池における水の濁りとして予測評価を実施している。予測の内容については、琉球石灰岩層に暫定調整池設置するということで、浸透係数ですとか、そういったものが本当にこの数値で正しいのかなという部分もある。改めて、赤土等による水の汚れを環境影響評価項目として設定させた上で、只今の御意見も踏まえ、改めて予測、評価を実施させ、妥当であるかどうか審査していきたいと考えている。

● どういう前提条件の下で予測が成り立つのかを書いていただかないと、それが実際に現実に合うのかどうかというのを判断できない。なので、予測の際にどういう条件を想定してこれが成り立つのかということに記載していただきたい。

● 地下水の水質の項目で、秋季にT-1で炭酸水素イオンの濃度が高くなったというのは、滞留時間の長い水が混ざって出てきたということか。

○ 詳細を確認していないので改めて確認したいと思う。

● あわせて、炭酸水素イオンだけが高くなるというのはおかしくて、おそらくカルシウムイオンも同時に高くなっているはずである。より具体的なデータがあればいいが、この説明だけではわからないと感じた。

○ そちらもあわせて確認したいと思う。

● 地下水面の位置について、海水準から 0.6m とある。地下水面の位置というのは変動するものであるが、どのような条件で測ったらこの位置だったということか。平均的にこうなのか、例えば、低い時にこうなのか、高い時にこうなのか、その説明がないと成り立たないと思う。

○ 水位と降水量の関係も観測しているで、記載の仕方についてはより分かりやすい記載を促したいと考えている。

● 地質の改変という記載についても、実際には地形の改変になってくると思うので、より正確性を期した記載をお願いしたい。

加えて、洞窟が 1 箇所あるという話があったが、洞窟が 1 個だけしかないという意味ではないということは、きちんと理解しておく必要がある。一般的には、あちこち、鍾乳洞というか、穴が空いているものなので、実際はたくさんあるけれども、そのうちの 1 個が見つかっているというのが実態だと思うが、その辺はどういう理解なのか。

○ 洞窟の文献調査はしていて、洞窟の分布についても準備書に記載がある。

● 実際にはたくさんあるのが見つからないだけだと思う、実際には地下探査しないと分からない。事業者さんの誤解がなければ大丈夫だとは思う。

● 地形改変の影響ということで、確かに、段丘の地形を変えるということはあまりないということは、十分理解できる。琉球石灰岩の段丘の場合というのは、表面から変わっていくというよりは、中に穴がどんどん空いていき、崩落して陥没するというパターンなので、上の土地利用という話では説明できない。石灰岩の上ではいきなり崩落するということは常に想定しなければいけないということはコメントしておきたいと思う。

○ 洞窟については、新石垣空港整備事業で詳細な調査が既になされている。そういった既存の事業や文献調査も含め検討するよう意見を述べたいと考えている。

● このポイントでももっとあるはずだということである。石垣島全体だけではなくて、その石灰岩の岩盤自体が穴だらけのものなので、おそらくここで見つかっているのが 1 個だけで、そのすぐ隣にもあるかもしれない。それは地下探査をしないと分からない。

調査といっても、文献調査で分かるようなものではなく、地下探査をしないと分からない。なので分からないことがたくさんある状況で、議論しているということを知っていただければいいということである。

● 生態系のところ、特殊性の部分で、二次林ではあるが、多くの生息基盤となっている樹林とあるが、これが鳥類の話ということなのか、その他の生物も含めての生息基盤なのか分かりにくいので、文章を

変えた方がいいかなと思う。

○ 具体的に、鳥類、哺乳類等そういった形で盛り込むよう伝える。

● 降雨確率には、5年降雨確率を用いて、その供用後の調整池を設計しているという話であるが、5年というのは、通常、過去何年のデータを用いてやるものなのか。5年に1度の大雨にも耐えられるというものを作る場合に、5年に1度というのは、過去100年の日降水量を低い方から高い方に並べて、高い方の20番目の値を用いるというやり方で降雨確率が出るのかなと思う。それが過去100年でやるのか過去30年でやるのかでだいぶ違ってくるのではないかと。意見として、近年の気候変動で増加していることを考慮してくださいと言っているが、具体的にどのようにすればいいのかということはない。過去30年とか最近のデータに基づいて5年確率降水量をもとめるのは一つの方法と思われる。

前回審査した別案件では2年確率でやっており、過去100年のデータで上から50番目ということは、もし降雨が年々増加するのであれば、その値を元に調整池を設計したら、毎年オーバーフローするのは当たり前な条件でやっている。我々はそれを認めていいのかということも気にもなる。ということで、5年確率というのは2年確率よりは良いが、そういう場合にどのくらいの過去のデータを使って、日降雨量として使われたのかというものを書いていただくと、非常に判断しやすい。

○ 5年確率は直近5年だと理解していたが、只今の御意見も踏まえ、妥当性を示せるよう都市計画決定権者に伝え、事務局としても記載の方法について検討したいと考えている。